

愛媛支部

ひめ通研40周年記念コラボ手話弁士付き映画上映会 ～私の頭の中の消しゴム～



12月15日（日）、愛媛県生涯学習センターで、映画「私の頭の中の消しゴム」を手話弁士付きで上映しました。弁士は、愛媛出身のろう俳優、砂田アトムさんです。世界を舞台に活躍しているアトムさんの素晴らしい表現力に、聞こえる人も聞こえない人も心を奪われ、共に涙しながら映画の世界に引き込まれていきました。アフタートークショーでは、ろう俳優の野崎誠さんと、ラジオパーソナリティ

の佐川由香さんも加わり、活動にかける熱い思いを聞くことができました。

今回、実行委員会を立ち上げ、準備を進める中で、もともと手話に関わっている人や、ろう・難聴の人たちだけではなく、もっと多くの人たちに手話の魅力や豊かな世界をぜひ知ってほしいという思いがありました。当日は、県内外から300人を超えるさまざまな立場の方々が観に来られました。これを読んでいる四国の仲間の皆さんにも会えてうれしかったです。

このイベントに関わったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



「キキクル気象庁」検索してみて！

香川支部



1月19日（日）10時～12時、香川県聴覚障害者福祉センターにおいて防災訓練が行われました。参加者は27名でした。

この防災訓練は、香川県聴覚障害者災害時支援対策準備委員会（香川県聴覚障害者協会、香川県中途失聴・難聴者協会、要約筆記サークルゆうあい、香通研）が主催で毎年開催しています。

講師に、高松気象台リスクコミュニケーション推進官の眞鍋恒夫氏をお招きし、過去に起こった台風被害を例に説明していただきました。早めの避難が特に必要になる場所はどこかなど、台風が過ぎた後でも潮の満ち引きの関係で増水の危険がある等、分かりやすく説明していただきました。また、南海トラフ地震に備えるため、地震のメカニズムの説明や、地震の後に起こる液状化現象の実験があり、皆で理解を深めました。

日ごろの準備と、早めの避難が大事とのこと。気象庁HPのキキクル（危険度分布）を活用し、早めに避難できるように、非常持ち出し袋や避難場所を確認しておきましょう。



液状化現象実験

あさいと 福祉

高知県『手話言語条例』成立

昨年12月、高知県議会で「高知県における言語としての手話の普及などの推進に関する条例」が全会一致で可決しました。都道府県では39例目になり四国で初めての県の「手話言語条例」になります。昨年7月に条例採択に向けて手話言語条例検討委員会が設置され、当事者・ろう学校長・学識経験者・手話関係者などで構成され、とさ通研会長もメンバーとなり協議を経ての制定になります。市町村からの意見書提出からやっと迎えたこの日、28名の関係者が傍聴し閉会後は濱田知事（横断幕を持たれている真ん中の方です）も加わり記念撮影をしました。

日本聴覚障害新聞に「スタートラインがやっと見えてきました。条例前文記載の『ろう者を含む全ての県民』の『ろう者を含む』は、ゆくゆくはなくしたいです」（冒頭の部分です）と県協会の竹島会長が載せています。

この条例ができたことで「手話は言語」という基本理念の追い風にしたいと思います。

高知支部



『徳島県手話言語条例(仮称)制定に向けて』

徳島県の手話言語条例（仮称）が、令和7年4月1日の施行をめざし、2月県議会での採択が見込まれています。昨年6月の本会議で、知事が前向きな答弁をしたその日のうちに、検討委員会の開催が決まるというスピード感も印象的でした。

検討委員会では、聴覚障害の理解が追い付いていない方もいましたが、聴覚障害者の意見を尊重しながら議論がすすめられ、特に鳴門教育大学副学長が議長として深い理解を示し、発言の機会を確保しながら進化した点が素晴らしかったです。また、「手話の使用を制限されてきた歴史への理解」や、「盲ろう者の触手話」の検討も含まれたことは、大きな前進だと思います。

3回の検討委員会を経て、知事が議会へ条例案を提出する2月議会にむけ1月20日に県への要望を行い、それに加え、1月29日には、後藤田県知事との面談も実施し、条例制定への直接の要望も伝えることができました。3月10日の本会議で無事に採択され、横断幕を笑顔で掲げられる瞬間が楽しみです！

徳島支部